

2025 年度 自己点検・評価報告書

アドミッションズセンター評価分科会

2026 年 3 月

基準5 学生の受け入れ

以下の観点を参考に、今年度の点検・評価および今後の方針を記入してください。

1. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。
 - ・ 学士課程全体及び各学部・学科並びに各研究科・専攻の入学人数や在籍学生数を適切に把握し、大幅な定員超過や定員未充足の場合には対策をとっているか。
2. 入学段階で身に付けていることが求められる資質・能力等や評価・判定方法・基準についてアドミッションポリシーにわかりやすく示されているか。
3. アドミッションポリシーに基づき、入学選抜の制度や運営体制を適切に整備しているか。
4. 学生の受け入れのための広報活動全般について、適切に実施しているか。
 - ・ オープンキャンパスにおける取組み
 - ・ 授業体験や姉妹校との連携事業などの実施状況
5. 入学した学生の入学後の学びについての追跡調査を実施しているか。
6. 定期的な点検・評価の結果に基づいて、改善・向上に向けて取り組んでいるか。

【1】昨年度の自己点検・評価で課題となった事項および今年度の方針・改善計画

1. について、適切な定員管理を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理を行った。コロナ禍以降、志願者が大きく減少する傾向が続いていたが、2024年度入試において志願者の延べ人数および実人数ともに前年を上回ることができ、回復基調に転じることができた。2025年度入試については、年内入試で本学のアドミッションポリシーに相応しい志願者のさらなる獲得を目標として、従来の学校推薦型選抜公募推薦入試を総合型選抜基礎学力方式に変更し、出願要件として学習成績の状況（評定平均）も問わないことにした。また、PASCAL入試についても学習成績の状況を3.5から3.2に変更し、理工学部もLTD方式で実施することとした。これらの変更は、勉学と共に、課外活動や探究活動に果敢に挑戦した受験生を迎えることを目指している。その結果、総合型選抜基礎学力方式では、昨年度の変更前の公募推薦入試の志願者数を上回ることができた。さらに、本学が昨年度までスーパーグローバル大学創成支援で培ってきたグローバルな教育環境を生かした、総合型選抜グローバル人材育成入試を新たに設けた。その結果、課外活動や探究活動に挑戦してきた受験生を獲得し、一定の成果を収めることができた。また、年明けの一般入試についても一般入試（後期）について地方会場を設けることとし、本学として初めてCBT（Computer Based Testing）方式を導入した結果、昨年度志願者数を上回ることができた。これら取り組みの結果、志願者実人数、入学人数とも全体で昨年度よりわずかに減少したが、年内入試において志願度の高い受験生を獲得できたことにより、昨年度とほぼ同数で踏みとどまることができた。

2026年度入試では、さらに総合型選抜基礎学力方式において併願型を、総合型選抜「女子特別選抜」（理工学部のみ）を新たに設けるなど改革を進めるとともに、入試や出願日程についても改善を行った。PASCAL入試プレゼンテーション方式（理工学部で実施）の廃止を行った。また、学部改組により、理工学部グリーンテクノロジー学科の特徴である“文理融合”の学生募集をめざし、基礎学力方式（専願型）（理工学部全学科）、大学入学共通テスト利用入試・一般入試（後期）2科目方式（グリーンテク

ノロジー学科のみ)において、国語や地歴公民も選択できる科目を増やした。

2. については、入学段階で身につけていることが求められる資質・能力等や評価・判定方法・基準についてアドミッションポリシーにわかりやすく示されていると考える。

3. については、アドミッションポリシーに基づき、1. でも述べた通り、入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備していると考ええる。

4. については、オープンキャンパスは、従来の年6回に、主に高校1.2年生の低学年層に向け9月実施を加え、年7回行った。そしてオープンキャンパスにおいては、本学の魅力である国際性や進路・就職をアピールする「魅力まるわかりイベント」を重要プログラムとして位置づけ、学生や教職員が多角的にプレゼンを行っている。加えて卒業生との交流イベント「卒業生が語る 創大のキャリア・就職の魅力」では、様々な分野で活躍する卒業生が自身の学生生活や就職活動について、高校生、保護者に対して説明や懇談を行っている。さらに、オープンキャンパスに来場した中高校生との個人懇談を各都道府県の担当を決めて教職員が積極的に行い、2024年度は年間で1235件行った。その他にも、志願者増の取り組みとして、SNS(LINE、インスタグラム等)による情報発信、オンラインを活用した入試ガイダンスや在学生が登場するオンラインイベント「ぶっちゃけトーク」を開催した。

高校との連携については、高校生へ向けた学びの訴求また、高校の探究授業をサポートする探究学習支援プログラムにも力を入れ、教員や学生の派遣を行うとともに授業動画や大学紹介記事、映像の配信など広報活動も積極的に行っている。姉妹校(創価学園)との連携については、学年別にプログラム化した研修の機会を提供するとともに、2026年度入試からは合格者に対して学部ごとに充実した入学準備プログラムを実施する予定である。さらに、神田女学園および郁文館グローバル高等学校との間で連携協定を締結しているが、体験授業やSDGs探究に関する教育活動、人材交流等、姉妹校以外との高大連携にも力を入れている。

5. については、入学後に新入生アンケートや学生生活アンケートを実施し、そのデータをIR室で蓄積、分析を行うことによって、学生の学びの状況と成果について追跡を行い改善に活かしている。

6. については、定期的な点検・評価の結果に基づいて、改善・向上に向けて取り組んでいる。

【2】今年度の取組みに関する点検・評価

1. については、総合型選抜基礎学力方式において併願型を設けた結果、専願型と併願型の合計で昨年度の志願者数を上回ることができた。また、新たに設けた総合型選抜「女子特別選抜」(理工学部のみ)において、一定数の志願者を獲得することができた。また、2年目を迎えた総合型選抜グローバル人材育成入試においても志願者数を増加させることができ、課外活動や探究活動に挑戦してきた受験生を獲得することができた。さらに、姉妹校である創価学園からの学校推薦型入試の日程を例年より早めて年内に実施し、入学前準備プログラムを設けて入学前教育に力を入れたことで、志願者の確保と増加につなげることができた。

2. については、入学段階で身につけていることが求められる資質・能力等や評価・判定方法・基準について、アドミッションポリシーにわかりやすく示されている。

3. については、アドミッションポリシーに基づき、入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備してい

ると考える。

4. について、オープンキャンパスは、従来の年6回に、主に高校1.2年生の低学年層に向け9月実施を加え、年7回行うことができた。高校の探究授業をサポートする探究学習支援プログラムにも力を入れ、教員、学生を高校へ派遣し、本学への理解を促進することができた。また、「夢ナビ講義」のプログラムでは、2025年に15名の教員による講義動画を追加制作した。その結果、専用サイト「夢ナビ」にて過去の制作分とあわせて多くの視聴と高校の進路指導での活用があり、それを通じて多くの高校生と接触の機会をもつことができた。

5. については、入学後に新入生アンケートや学生生活アンケートを実施し、そのデータをIR室で蓄積、分析を行うことによって、学生の学びの状況と成果について追跡を行い改善に活かしている。

6. について、定期的な点検・評価の結果に基づいて、改善・向上に向けて取り組むことができた。

【3】今年度の点検・評価に基づいた改善計画

<短期計画（アセスメント実施後1～2年の期間で実現可能な改善策）>

高校生の年内入試への意識が高まる中、総合型選抜基礎学力方式を併願可としたり、総合型選抜「女子特別選抜」（理工学部のみ）を設けたが、本アドミッションポリシーに相応しい志願者の獲得をさらに目指していきたい。

<中長期計画（アセスメント実施後3～5年の期間で取り組む改善計画）>

2026年度は学部改組、募集人員の改編が行われる年になるが、それに対応した入試制度の充実と改善を断続的に行いたい。具体的には、姉妹校である創価学園の推薦制度において始めた入学前プログラムのさらなる充実、C B T方式の多面的な導入等、多次元にわたり改善を進めていく。